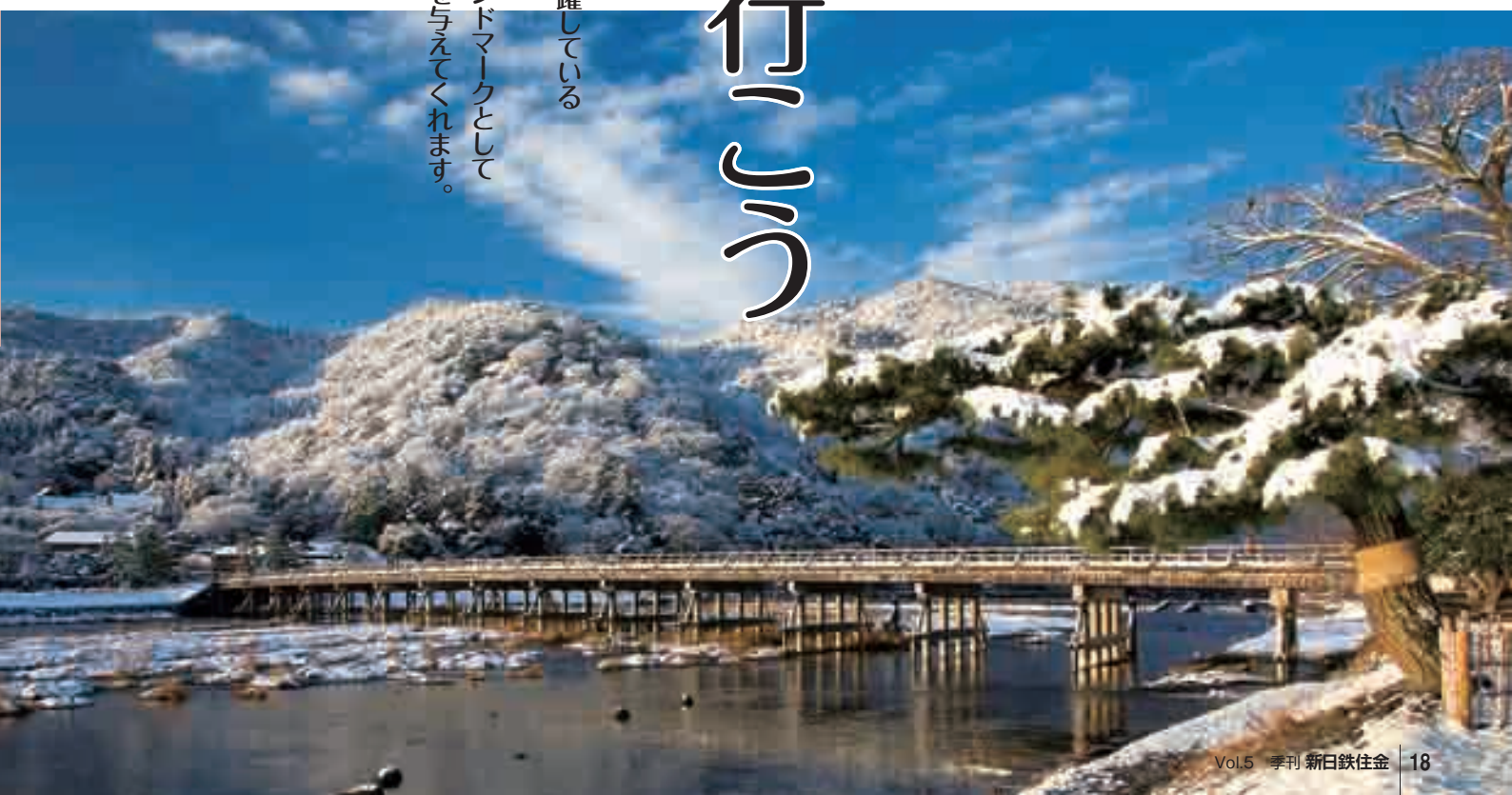


八幡橋（東京）
旧弾正橋。1878（明治11）年に初めて国産の鉄でつくられた橋で、アーチ材は鑄鉄製、引張材は鍊鉄製という鑄鍊混合の独特な構造を持つ。文明開化のシンボリックな存在だったが、関東大震災後の区画整理で1929（昭和4）年深川に移設。今も人道橋として使われ、明治初期の風格を伝える。国の重要文化財。



橋を見に行こう

100年近くの歳月を経て、今なお現役で活躍している鉄の橋は、全国各地にたくさんあります。交通の要所という機能を超え、街や自然のランドマークとして日本の風景に溶け込み、私たちの心に安らぎを与えてくれます。

Photo Essay

平野 暉雄氏の写真で綴る鉄の橋

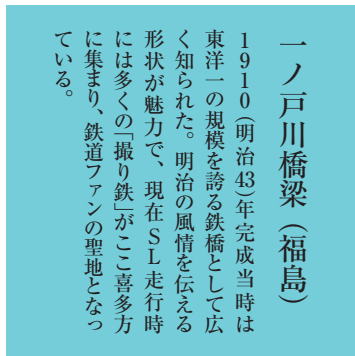
● 平野 暉雄（ひらの・てるお）

橋の景観設計家・写真家。1943年京都府生まれ。68年立命館大学理工学部土木工学科卒業。77年（株）景観技術センター設立。土木学会フェロー会員、日本写真協会会員。作品集に『橋を見に行こう 伝えたい日本の橋』（自由国民社）、『橋を楽しむ（歴史で辿る日本の橋・中国古代橋梁・韓国伝統橋）』（日本写真企画）2014年2月下旬発売予定など。



清洲橋（東京）

関東大震災復興のシンボルとして1928（昭和3）年、隅田川に架けられた。女性的な美しいシルエットに反して、近くで見るとがっちりとした骨太な構造。鉄のしなやかさと強さを兼ね備えた優美な吊橋だ。国の重要文化財。



一ノ戸川橋梁（福島）

1910（明治43）年完成当時は東洋一の規模を誇る鉄橋として広く知られた。明治の風情を伝える形状が魅力で、現在SL走行時には多くの「撮り鉄」がここ喜多方に集まり、鉄道ファンの聖地となっている。



白川の鉄桁橋（京都）

知恩院周辺を流れる白川に、人が一人やつと通れるほどの名もなき橋が架かっている。スレンダーでシンプルな構造が、鉄の力強さを感じさせる。渡り始めは恐る恐る前かがみ、渡り終わると笑顔がふれる心なごむ市井の橋だ。



南河内橋（福岡）

八幡製鉄所の工業用水を確保するため1927（昭和2）年に建設された貯水池を横断する橋。レンティキュラー・トラス（Lenticular Truss）という珍しい構造形式を主構造に持つ。その外見から通称「めがね橋」として地域住民に親しまれている。国の重要文化財。



渡月橋（京都）

風光明媚な嵐山に架かる橋。1934（昭和9）年、車社会に対応するため鉄桁橋に生まれ変わったが、京の風情に溶け込むように桁高を低くし、側面には木の桁隠しを施して、いにしえの木橋の趣を残している。2013年9月の台風18号で桂川は氾濫したが、橋は流されることなく無事だった。先人の知恵と現代の技術が橋を護った。